**SDGs発展1 最終レポート**

学籍番号：2322003 氏名：阿部佑哉

Gooddo (2020年7月22日)によると、2020年7月1日、日本全国でレジ袋が有料化された。以前から先行してレジ袋有料化を行なっていた都道府県や市区町村はあったが、法律で定められた規定により、全国で有料化が始まったという。レジ袋有料化というニュースに、当時私を含め周りの人々は皆驚いていた。しかしこの政策はなにも唐突なものではなく、あらゆるプラスチックが起こす環境問題に配慮して打ち出されたものである。プラスチックごみの問題は日本だけでなく世界中で大きな問題になっており、この時から対策が急がれていた深刻な環境問題なのだ。また、総務省(令和2年5月)「レジ袋有料化について」によると、日本から毎年排出される廃プラスチックのうちレジ袋が占める割合は2％程度だという。この数値だけを見れば僅かなものだと感じてしまうが、実際のところ、日本の人口1人当たりのプラスチックごみの排出量はアメリカに次いで世界2位であり、そのなかの2％ともなれば少ないとは言えない量のプラスチックごみが我が国から排出されていることがわかる。

　プラスチックごみの問題はもちろんレジ袋だけではない。Gooddo (2020年7月22日)によると、プラスチックの生産量と廃棄量は年々増加している。1950年以降のプラスチックの生産量は83億トンを超えており、そのうち63億トンがゴミとして廃棄された。今でこそ焼却処分やリサイクルなどが行われるが、以前は埋立や海洋などに投棄されることも多く、今までに廃棄されたプラスチックのうち79％がそのような処理を行われているという。同サイトによると、プラスチックは軽量で耐久性が高く、成形しやすくて安価で大量生産しやすいという利点の多さから、世界各国で多くの人が日常的に利用している。しかし、その便利さと使い捨てのしやすさ、そして廃棄量の多さから適切な処理が行われないものが多く、環境に影響を与えてしまっているというのだ。

プラスチックが及ぼす環境問題として挙げられるものは、化石資源の大量消費、海洋汚染と生態系への影響、大気汚染や地球温暖化への影響、リサイクルにおけるリスク、人体や生物への影響などがある。調べてみるとそれぞれの問題は、プラスチックが原油を原材料としていること、軽くて丈夫であることから微生物などに分解されずに全部あるいは一部の破片などの状態で自然界に存在すること、焼却処分による二酸化炭素の増加、一部のプラスチックには内分泌撹乱化学物質が含まれているなど、プラスチックという物質の原料や性質に由来しているということがわかる。

　これらのことから私が考えたのは、プラスチックごみが引き起こす環境問題についての正しい知識がより多くの人に広まり、意識の改善につながるような対策が必要だということだ。2020年7月1日のレジ袋有料化はまさにその例の1つであり、人々の意識改革の第一歩だと私は考える。レジ袋を有料にすること自体に意味があるのではなく、有料になることで今まで何気なく受け取ってはごみとして捨ててしまっていたレジ袋が本当に必要なのか考えるきっかけになる。それが、ひいてはプラスチックごみ全体についての意識を変える第一歩になる、そういった狙いがあって施行されたのがレジ袋有料化の政策なのではないだろうか。また、レジ袋以外でも不要なプラスチックごみは日本国内で驚くほど多く排出されている。例えば、MIRAI PORT (2021年7月23日)によると、スーパーに並ぶほとんどの商品には、プラスチックを利用した厳重な包装がされている。その大量のプラスチックがゴミとなり、廃プラスチックの処理に莫大な社会的コストがかかっているという。お菓子の包装や、惣菜を入れる容器など、プラスチックは普段意識もしていないところで大量に使用されている。軽くて丈夫なプラスチックはそういった用途に適していることは間違いないが、問題はそのプラスチックがごみとなって処理にコストがかかることである。これからもプラスチックを大量消費するのであればリサイクルなど環境に配慮した処理技術をさらに発展させていくべきであるし、それが難しいのであればプラスチックを削減するなどの行動をとっていくべきであると私は考える。

　最後に、レジ袋有料化の政策は最初こそ戸惑いを見せる人も多かったが、その成果は確実に現れている。MIRAI PORT (2021年7月23日)によると、レジ袋が有料化される前のレジ袋の辞退率は約3割程度であったのに対し、環境省が2020年11月に行なった調査の結果、レジ袋の辞退率は71.9％と大幅に上がった。それにくわえ、レジ袋有料化により「プラスチックごみ問題への関心が高まった」と答えた人は全体の78％にものぼったという。上記で述べているように、レジ袋有料化が人々にとってプラスチックごみ問題を考えるきっかけになるという狙いで施行された政策であるとするならば、この調査結果はその狙いが成功したということを示すのには十分であると考える。この調査が行われたのは少なくとも2021年以前であるため、2年が経った今であればさらに意識改革が進んでいるということも考えられる。まだまだ残す課題は多いプラスチックごみ問題だが、日本国内において意識の変化は確実に起こっている。このいい流れを途切れさせず、プラスチックごみによる環境問題解決に向けた小さな努力を我々一人一人が地道に続けていくことが、5年後10年後の地球の未来に影響していくだろう。

＜参考文献・資料＞

Gooddo (2020年7月22日)「レジ袋などのプラスチックごみが原因で引き起こされる環境問題とは？」<https://gooddo.jp/magazine/oceans/marine_pollution/plastic_garbage/plastic_bag/10679/> (参照 2023-08-01)

MIRAI PORT (2021年7月23日)「【環境問題】レジ袋有料化の背景と環境への影響」<https://www.mirai-port.com/planet/2543/> (参照 2023-08-01)